

将来に向けて友好的互恵・互助に基づく交流を展開することで、国際的な存在感を高め、県民の利益向上を目指す静岡県の地域外交。今回は、今年友好提携35周年を迎える静岡県と中国浙江省との成熟した関係と今後の展望を紹介する。

静岡県・浙江省友好提携35周年！その成熟した関係と展望

交流のすそ野が広がり 中国路線も拡大

静岡県と中国の浙江省は、自然、気候、産業など、多くの分野で共通点がある。海に面した立地、山地の多い豊かな自然、温暖で降水量の多い気候、ミカンや茶栽培の盛んな土地柄など。そのため両県省は古くから交流があり、13世紀の宋の時代、聖一国師がお茶の種を現在の浙江省から持ち帰ったのが静岡茶の始まりとも言われる。そうした縁に着目し、相互の発展を目指して1982年に静岡県と浙江省は友好提携した。以来、人的交流をはじめ、経済、文化、教育分野など、さまざまな交流を両県省は続けてきた。

言われる両県省にとって転換期になったのは、2010年に行われた「ふじのくに3776友好訪中事業」だ。これは同省との友好交流を一層促進するとともに、富士山静岡空港の上海路線の需要拡大を目指した取組で、当初は同年5月から翌年3月の期間に富士山の高さにちなんで県民3776人の訪中を目標に掲げていたが、最終的に6042人の参加があり、両県省の交流を加速させる要因となった。その後、友好提携30周年記念事業等により、農業、医療、教育、学術、文化など15分野・20項目以上で交流が進み、市町や民間団体間でも5分野21件の協定・覚書が締結に至っている。このように交流のすそ野が広がる中で、富士山静岡空港の中国路線も

拡大。平成29年夏ダイヤでは浙江省の杭州と寧波のみならず、上海・武漢便、瀋陽便も定期便として就航しており、中国における本県のプレゼンスも高まっている。

新たな分野での 交流の拡大に期待

本県と浙江省の友好提携35周年を迎える今年には、年間を通じて記念事業が実施される。特に、両県省の双方が継続的にメリットを享受できるよう、交流の深化や通商の拡大を目指し、新たな分野である食、健康・長寿、スポーツをテーマに積極的な交流を進めていく。食の分野では4月に「ふじのくに食の都仕事人」の県内38店舗で浙江省にちなんだ料理を提供する静岡県・浙江省「料理

1972年	日中国交正常化
1982年	静岡県・浙江省友好提携 中国浙江省展覧会開催(静岡県)、県民50万人が観覧
1987年	友好提携5周年から5年ごとに記念事業を実施
1992年	友好提携10周年 中国浙江省節の開催(静岡県)
1994年	静岡浙江友好会館(花家山荘桂花楼)開館
1995年	蘆山経済開発区内に静岡県工業団地を開設
2002年	友好提携20周年 浙江省投資貿易商談会の開催(静岡県)
2009年	富士山静岡空港開港、上海定期便就航を記念して浙江省訪問団が来静
2010年	ふじのくに3776友好訪中事業で6,000人超の県民が浙江省・上海を訪問 両県省の交流が中国で高く評価され「対中友好都市交流提携賞」受賞
2012年	友好提携30周年を機に広報、文化、医療衛生、経済、教育等に関する協定を締結。各分野の交流がさらに拡大 浙江-静岡名品展覧会(静岡県)、静岡県-浙江省2012緑茶博覧会(浙江省)の開催
2013年～	静岡県-浙江省フォーラムを両県省で隔年開催
2014年～	両県省の友好交流卓球大会を相互開催
2015年～2016年	富士山静岡空港から寧波市と杭州市への定期便就航



1982年4月、静岡県・浙江省友好提携調印式。



2010年、ふじのくに3776友好訪中事業で3776人の訪中を達成。



2012年4月、友好提携30周年で会談する川勝知事と夏宝龍(かほうりゅう)省長(現書記)。

ウイーク」を開催、9月から11月には浙江省で県産水産物のPR事業の実施を予定。スポーツ分野では、8月に小中高生を対象とした静岡県・浙江省友好交流卓球大会の開催のほか、静岡市で4月に行われる「日本平桜マラソン」と浙江省杭州市で11月に行われる「杭州マラソン」に、それぞれの県省からの派遣選手の受け入れ等を予定している。

また、同省では高齢化が急速に進んでおり、介護、医療、健康分野における対応が急務とされている。そこで同省は世界トップクラスの健康長寿を誇る本県の医療・介護等関連企業をこの4月に視察。一方で県立こども病院と浙江大学医学院附属児童病院による友好協定を目指しながら、医療分野での一層の相互交流を推進し、双方の医療水準の向上や健康増進施策の発展を図っていく。こうした両県省の取組には中国全体も注目しており、今後本県は首都北京を中心に中国全土に向けて本県の魅力

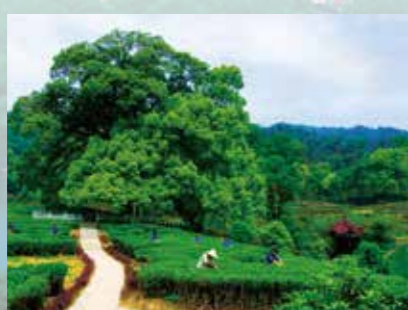
を発信していく。

35年の歴史から 今後の展望を読む

静岡県では友好提携した1982年以降、浙江省から海外技術研修員を多数受け入れてきた。その分野は医療、経済、農業、製造業、水産業、教育、行政、都市開発など多岐にわたったり、両県省の実務的な交流が長年にわたって複層的に行われてきたことを裏付けている。民間企業で受け入れた研修生の中には、1980年代に来静し、後に中国で貿易会社を起業した例や、1990年代に来静し、その後ソフトウェア会社を起業して、現在本県の海外企業誘致活動に名乗りを上げている例など、さまざまな成果が表れている。こうした研修生は友好の使者と呼ばれる、経済や通商面での交流を促すだけでなく、個人レベルの交流も下支えし、人脈づくりや両県省のイメージ向上に大きく貢献してきた。

1980年代、同省の人口は約3000万人であり、都市周辺には田園が広がり、暮らし向きも質素であったが、その後急速な経済発展を遂げ、現在の人口は約5600万人、省都の杭州市は未来都市を彷彿とさせる。中国屈指の大都会となつていく。そうした劇的な変化の中で、両県省は友情を育みながら互いに発展を遂げてきた。今後も両県省は、共にメリットとなる関係を継続、深化させていく。

友好提携から35年。両県省は若い年代の交流に重点を置き、次代を担う人材育成に力を入れている。実務的な交流が若い世代で続いていけば、今後もさらに成熟した大きな実実が実るだろう。



浙江省の茶畑 ©杭州市旅游委員会

※本県の農林水産業及び食文化の振興に貢献しているとして、県が表彰した料理人。